

## 北海道本別高等学校

学校種間連携による地域の理科教育の振興～児童生徒の思考力や創造性を育む協働体制の構築～

## 地域に根づく理科教育振興の広がり

## 小規模校の課題を解決する試み

十勝平野北東部に位置する北海道本別高等学校では、本別町内の小・中学校との協働に加え、北海道教育大学釧路校などの協力を得た地域ぐるみの理科教育振興に取り組んでいる。活動の動機は、配置される理科教員の少なさという小規模校の課題を補うことだ。

具体的な活動内容は、各校種協働での授業プログラムの作成や、高校生による理科実験教室など。中心人物として活動を牽引する天野僚一教諭や近藤浩文校長は、「全道、さらには全国の小規模校に向けて取り組みの成果を発信したい」と口をそろえる。活動の一環で作製した「地層剥ぎ取り標本」が帯広市や釧路市の小学校に貸し出されるなど、すでに活動は自治体を越えて広がっている。



「授業プログラム」の一環、植物の遷移に関するグループ学習



「本別サイエンスクラブ」と巨大空気砲を使った協働実験



地層剥ぎ取り標本を用いた探究活動

## 持続可能な活動へと発展

さらに、今回のコロナ禍を機に“距離の壁”を越えた連携の広がりも見せている。助成金で購入したiPadを用い、オンラインで小学校との連携授業を行ったほか、東京の講師によるリモート講演なども実施。9月には、北海道教育大学函館校の教員によるリモート実験教室も予定している。「ICTの活用で、移動に時間がかかるという北海道ならではの悩みが解決されました」（近藤校長）という。

また、本別高校生による小学生などを対象とした理科実験教室では、地元の科学サークル「本別サイエンスクラブ」との協働体制も構築された。昨年度の実験教室で中心的な役割を果たした卒業生がサイエンスクラブに入部したこともあって、つながりは強固だ。近藤校長が「こうした体制ができれば、活動が持続可能なものになると考えています」と話すように、本別の理科教育振興は、将来に向けた広がりも見せ始めている。

(令和元年度プログラム助成)



## ●実施担当

天野僚一 教諭

## ●活動のモットー

理科5科目を教えているが、専門である生物以外の科目を学ぶと「おもしろい」と感じる。この「おもしろい」という感覚を生徒と共有できるようにしたい。

## 学校概要



「創意実践」を校訓に旧制中学校として開校。今年度から「コミュニティー・スクール」となり、地域の核となる教育活動をめざす。

設立:1942年

生徒数:92人

所在地:北海道中川郡本別町弥生町49番地2



地層剥ぎ取り作業

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索